

平成30年度 日本大学危機管理学部個人研究費 研究実績報告書

所属： 危機管理学部 危機管理学科

資格： 教授

氏名： 河本 志朗

<p>研究課題</p>	<p>国際テロ情勢を踏まえたオリンピック等大規模イベントにおけるテロ対策の在り方について</p>
<p>報告の概要</p>	<p>研究目的及び研究概要 平成30年度個人研究費は次の研究目的と研究概要の実行のために使用した。 1. 研究目的:2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックはスポーツの祭典である一方で、テロリストにとっては世界に向けて自らの主義・主張・存在感をアピールする絶好の舞台でもあることから、テロの脅威が高まることが予想される。しかし、日本ではこうした大規模イベントにおけるテロ対策の取組が必ずしも十分とは言えない状況にあり、その取組の在り方を調査研究することにより、東京オリンピック・パラリンピックの安全な開催に資することを目的とする。 2. 研究概要:テロ対策の中でも特に、万一発生すると対処が困難なCBRN(化学、生物剤、放射性物質、核物質)を使用したテロの脅威の現状と対応策について、CBRNテロの脅威、技術開発の現状、緊急処理事態における多機関の連携の在り方などについて、文献調査、関係者からのヒアリング、学会や研究会などでの情報収集を行った。また、近年大きな脅威となっているホームグロウン・テロやローンウルフ・テロへの対処として、若者の過激化防止に向けた先進的取組について文献調査、関係者からのヒアリング、学会や研究会などでの情報収集を行った。</p> <p>研究成果 平成30年度個人研究費を使用した研究により、直接的な被害者よりもそれを見聞きした人々に対する心理的影響を重視するテロの本質に鑑みて、テロリストがCBRNテロを実行した際にそれがどのような効果を持つのかについて考察し整理することができた。さらに、それを踏まえたうえで、特に警察機関における国民保護活動としてのCBRNテロへの対処の在り方と消防、自衛隊、自治体、医療機関等との多機関による連携の重要性とその在り方について分析し整理することができた。この成果は、著書『実戦CBRNeテロ・災害対処』(共著)として公表するとともに警察政策学会総会シンポジウムにおいて発表した。 また、若者の過激化防止対策に関しては、日本の地域警察活動、特に「交番制度」の持つ、地域に密着した警察活動の現状と警察に対する市民の信頼の高さについて分析検討することにより、こうした活動が過激化防止に貢献できる可能性について明らかにすることができた。</p>
<p>研究業績</p>	<p>・論文および著書 著者名・論文標題・雑誌名・査読の有無・巻・発行年・ページ数 著書:河本志朗『実戦CBRNeテロ・災害対処』「第1章テロ災害の本質」、「第2章現地調整所から見たテロ災害発生時の各機関の役割 第2節警察」、2018年6月1日、東京法令出版</p> <p>・学会発表等 発表者名・発表標題・学会名・発表年月日・発表場所 学会発表:河本志朗「テロ対策における多機関連携」平成30年度警察政策学会シンポジウム、2018年7月4日、グランドアーク半蔵門</p> <p>・その他 *書評、雑誌投稿など 著書名・標題・掲載誌名・発表年月・発行所 *講演会、研究会等での講演・発表 発表者・発表年月・題目名・講演会等名 *社会貢献活動等 1. 講演 ①河本志朗『大規模イベントにおけるテロ対策』、ラグビーワールドカップ2019東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に向けた危機管理研修、2019年3月13日、横浜市関内ホール ②河本志朗『地方都市におけるテロ対策』、山口県テロ対策パートナーシップ推進会議、2019年2月14日、山口県警察本部会議室 ③河本志朗『ソフトターゲット対策～議論に向けた視点と課題の共有～』、外務省主催平成30年度「テロ対策におけるソフトターゲット対策の強化に関するアジア地域実務者ワークショップ」2019年2月12日、外務省国際会議室272号 ④河本志朗"Japanese community policing system 'Koban' in possible contribution to P/CVE and a good practice", Cross regional workshop with a study visit on "Preventing violent extremism leading to terrorism and returning Foreign Terrorist Fighters through rule of law-based criminal justice approaches" 2018年12月20日、外務省国際会議室</p>